今回は鍵谷隆一先生を紹介いたします。

先生は昭和５７年から理事に就任されて平成９年に副会長、平成１８年から平成２７年まで会長を務められました。

その年には北海道社会貢献賞、岩見沢市教育振興表彰、日本学校歯科医会会長表彰など受賞しております。

先生は八雲町生まれで生後１歳まもなく岩見沢に来られ大学進学まで岩見沢で過ごされました。

大学は日本大学歯学部で大学院修了もして歯学博士でもあります。

大学院終了後に岩見沢に戻り鍵谷歯科医院の院長になりました。

大学時代は剣道部、自動車部に所属しており、当時はスキーブームもあり本州の有名なスキーリゾート地に頻回に足を運んでました。

入学時のエピソードとして当時は大学紛争の最盛期で入学は５月だったそうです。病院の窓には鉄格子がはりめぐらされてました。

同じく指導教員の鉄拳は常識的でありましたそうです。

奥様との出会いは学生時代はクラスも違い話す機会はなかったが、卒業後のバイト先での再会がきっかけでありました。

先生は中国語が堪能でして奥様の水墨画の中国人の先生と懇意になったのがきっかけでＮＨＫの中国語講座などで独学で学ばれたとのことです。

ご令嬢は現在ハルピンで日本語の教師をしてるそうです。

もうすぐ７０歳を迎えるあたり歯科界に思うことは歯科医師会は地域医療の要であり、特に高齢化社会を迎えるに当たり訪問歯科の重要性は高まるが、現状では実施している先生（特に若い世代）が少ない。歯科医師会活動の意義を含め、若い世代に周知していきたい。その一つの手段として、多くの情報がある中、何が歯科医師に重要かを見極め、それを配信する、「歯科医師会」のありがたさを知らしめることもありかと思ってます。

　最後に4期９年の会長時代の感想を伺ったところ、「若い人を育てられた」、若い人が協力してくれたこと、若い人に存分にやってもらい責任は自分が取る、そんな思いでいたことが一番の思い出とのことであった。

　これとは別に「岩見沢衛生士会」の頑張りようを会員に伝えて欲しい。との要望があった。